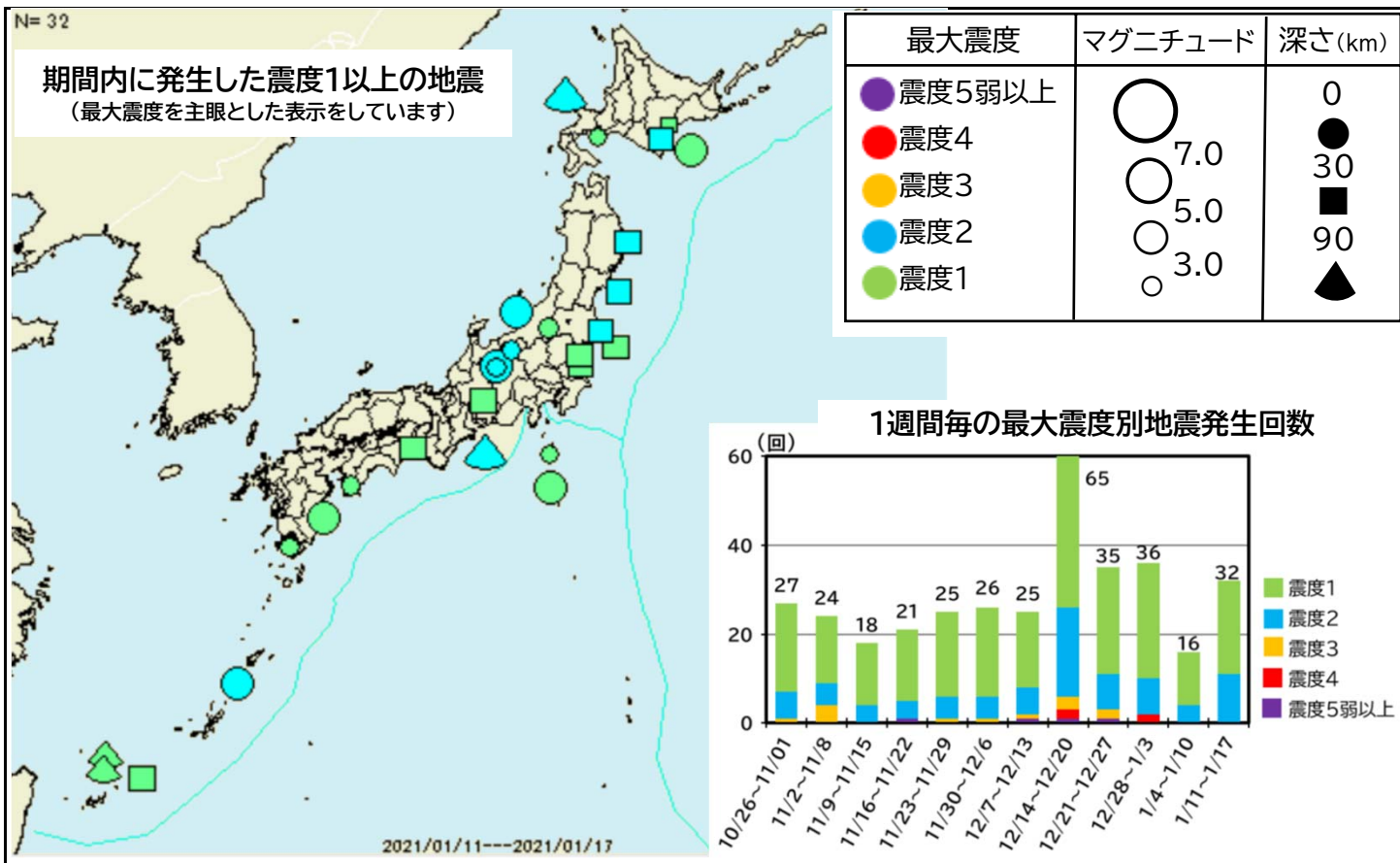


この期間の最大震度は2

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)



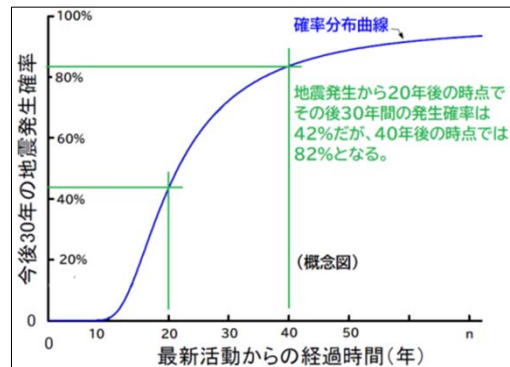
主な地震の発生状況

- この期間、震度1以上の地震が32回発生。最大震度は2 ■
- ・この期間は、特記するような地震の発生はありませんでした。

トピックス

■ 地震発生確率が上昇？ ■

- ・政府の地震調査委員会は、活断層で発生する地震や海溝型地震が発生する確率を発表しています。
- ・この確率の計算にあたっては、①地震は地殻にかかっている連続的な力に耐えられなくなった時点で発生する。②過去も、これからも、力のかかる状況には大きな変化がない。③計算対象の活断層や海溝で過去に発生した地震と同じ間隔で今後も地震が起きると仮定して計算します。
- ・また、この確率の計算には、想定した地震が発生しない限り、図のように確率が時間の経過とともに増加するモデルを基本的に用いています(異なる手法によるものもある)。
- ・このため、毎年、1月1日を基準日として算定した確率の値を発表しており、今年も1月13日に発表されました(下記URL)。
- ・この発表による確率の数値の変化を、「〇〇地震の発生確率が引き上げられた」、「確率が上昇した」、「見直しを行った」等とのセンセーショナルな表現を用いるメディアを時に見かけます。
- ・しかし、何か地殻活動に異常な変化があったために確率が上がったのではなく、変化がなかったのに値が上がったということになります(過去の発生間隔が短い地震ほど、経過年毎の確率の変化が大きくなる)。
- ・地震の発生確率で示される数値は馴染みが薄い面もあるので、他の自然災害や事故などに今後30年以内に遭遇する確率と比較してみると、交通事故で死亡0.2%、交通事故で負傷24%、台風で被災0.48%、航空機事故で死亡0.002%、台風が通過100%だそうです(地震調査委員会(2008):「地震の将来予測への取り組み」より)。



あなたが気にしている地震の確率は大きいと感じるか？ 小さく感じるか？

[https://www.jishin.go.jp/evaluation/long\\_term\\_evaluation/chousa\\_21jan\\_kakuritsu\\_index/](https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/chousa_21jan_kakuritsu_index/)